

認定看護師会だより

No.148

認知症看護認定看護師 島津健太 (PHS: 3938)

認知症の人の意思決定支援について知ろう！

認知症の人の同意能力をどう評価するか困った経験はないでしょうか？認知機能低下のため医療行為を受けるか受けないか自分で判断することが難しくなった方に対して、どのように医療を提供するかが医療現場にとって大きな課題となっています。今回は医療同意能力の考え方と本人の意思決定を支援する方法についてお伝えします。



医療同意能力とは

医療行為の同意には①理解②認識③論理的思考④選択の表明の4要素が必要です。認知症の場合は選択の表明だけが保たれていて、理解せずに同意することがないように、本人の理解の程度を確かめ、一度**本人の言葉**で説明してもらうことが一番有効です。



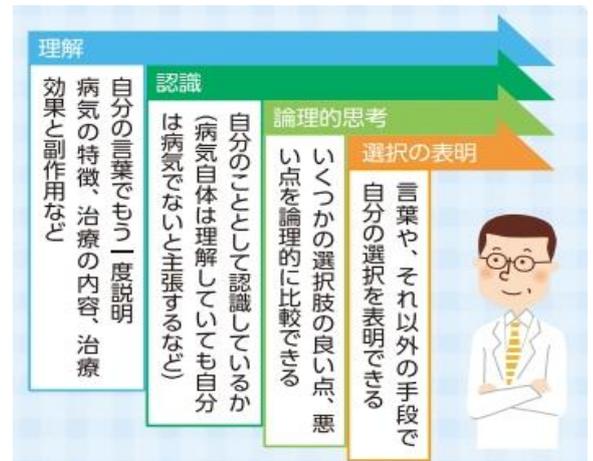
本人の気持ちに目を向けてみよう

医療に関して慣れない説明を受けて、意思決定を迫られたら、「急に尋ねられても答えられない」「ゆっくり考える時間が欲しい」など誰でも戸惑いや不安な気持ちになります。本人の気持ちに寄り添い、信頼関係を構築することを大切にしましょう。



本人の理解を促し、意思を汲みとる工夫

高齢者の多くに加齢性難聴による聞こえの悪さや、白内障による視力の低下など感覚の障害が見られます。理解を助ける方法として、聴覚や視覚を補うために眼鏡や補聴器を使用することが有効です。認知症が軽度の場合は、最初のステップとして、本人にわかりやすく説明することで有効な同意が得られる場合があります。認知症が中等度～重度の場合は、本人の意向が推測できる情報を集め、家族、介護関係者からの情報も総合して本人の意向に沿った治療の選択ができるよう工夫しましょう。



コミュニケーション・ワンポイント

- 相手の注意を引く
- 静かな環境をつくる
- 言葉によらないメッセージを送る(表情やジェスチャー)
- 言葉によらないメッセージを受け取る
- ゆっくり穏やかな調子を保つ
- 相手に合わせて具体的な言葉や短い簡単な文を使う
- 十分な時間をとり、表現できるように促す
- 相手の沈黙を受け入れる
- 適切な情報を示して、問題解決のための助け船を出す
- 不安が強い時は時間をおき、本人に合わせて落ち着けるように関わる
- 内容を理解しているか確かめる
- 一度の説明ではなく、理解度に合わせて繰り返す

難聴

- 補聴器がある場合はなるべく装着してもらう
- 本人の正面から口の形を見るように促し、大きく口を開けて発音して見せる
- 必要以上に大きな声で伝えると、難聴を悪化させる場合がある(騒音暴露)。適宜、筆談を用いる

注意

- 人の出入りや他の人の話し声などが気にならず集中できる環境
- 話す前に名前を呼んで注意喚起

記憶

- 一文を短く区切る。キーワードとなる言葉は一文に1~2個程度が理想
- 字や図など視覚的な補助を使うと、記憶に残りやすい。説明の時に使ったメモや図を、後日の確認の時に使うと思出しやすい

理解

- 平易で簡単な言葉、馴染みのある表現で繰り返す
- 説明内容のポイントを分かりやすく書いて指し示す
- 実際の病変の部位を確認しながら説明する

選択

- 選択肢を2つに絞る→「はい」「いいえ」で答えられる質問